

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 21 章 18～25 節>

①ペトロの「死に方の予告」は不吉極まりないものか？

津波で全て流された石巻市出身の作家辺見庸氏が、「大震災で全てが破壊されることがあることを知らされた。ある人が、“生きていることは偶然で、死ぬことが必然なのだ”と言ったが、本当にそうだと思った」と語っていました。「ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現わすようになるかを示そうとして」(19)という言葉も、ただ不吉と思うだけではなく、この辺見氏の重い言葉の中で考えなければならないと思います。ペトロは、復活されたイエス様に自分の罪を赦していただいたことを心から確信し、喜びました(21:17まで)。そのペトロの最後は逆さ吊りの十字架刑だと言われています。死をただ忌み嫌い、避けたい、考えたくないとするのではない別の人生の展開がそこにはあったのです。

②人は人、あなたはあなた。大事なことは、主に従って生きているか。

そのペトロが、「イエスの胸もとに寄りかかる」(13:23にも)「イエスの愛しておられた弟子」のことを気にしていました。そして聞いたのです、「この人は？」と。主イエスは即座にお答えになりました、「それはあなたと何の関係があるのか？ ない」と。「人との比較をする必要はない。私があなたに用意した生き方をなせれば、それでいいではないか。人は人。あなたはあなた。私に従いなさい」と語りかられたのです。

先に挙げた辺見氏は次のようなことも語られていました。「大震災の絶望の中で、どこに、何に、希望を見出せるか？ カミュの小説『ペスト』の中に出て来る一人の医師が、人がバタバタ死んで行く状況の中で、なおも命を救うために自らを犠牲にして働く。この一人の特殊な人間の誠実さの中に希望を見出せるのではないかと。私は、これを聞きながら、イエス・キリストのことを思い巡らしました。主イエスとは、まさに、神様がどんなときにも私たちが希望を失わないようにお与え下さったお方なのではないでしょうか！ そして、私たちはこの主の存在を知るからこそ、この医師のように、人のことは気にせず、ついには自分の命のことも気にせず、神様と人に喜ばれるために生きられるようになるのではないのでしょうか！ まさに、「震から新へ」の生き方の転換です！